

2008.10.30(木) 18:00

大阪大学医学部附属病院
外来棟 4階 第1カンファレンス室

第43回未来医療セミナー

医薬工連携による未来創薬

大阪大学大学院薬学研究科蛋白情報解析学分野 教授
医学系研究科分子医薬学 (兼任)
生命機能研究科 (兼任)
臨床医工学融合研究教育センター (兼任)

土井 健史 先生

化学的観点から生命現象を解明する新しい学問分野として、ケミカルバイオロジーが脚光を浴びているが、これはこれまでの創薬研究の一部としてすでに実践されていたものである。分析技術のめざましい進歩と化学と生物の融合により、創薬を目的としない研究にも用いられるようになった。別の言い方をすれば、誰にでも容易に創薬研究ができるようになったとも言える。しかし、疾患そのものに対する理解や原因の追求、ヒトに対して有効か否かの評価等を的確に行わなければ効率の良い創薬にはたどり着けない。生体イメージング技術の発展とマイクロドージングの導入も必要と思われる。今後、ますます医学と薬学、そして工学技術が力を合わせて行かなければならない。

連絡先：未来医療交流会（大阪大学医学部附属病院未来医療センター内）

Tel:06-6879-6557, Fax:06-6879-6538

E-mail:koryukai@hp-mctr.med.osaka-u.ac.jp

協賛：21世紀 COE 細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成

- Center for Integrated Cell and Tissue Regulation -